



LETTER OF CONFORMANCE

Statement No.:

PRJN-333923-2022-AST-JPN-01

鹿島建設株式会社 KAJIMA CORPORATION

〒107-8388 東京都港区元赤坂 1-3-1

鹿島建設株式会社が株式会社三井住友銀行から受ける融資は、ポジティブ・インパクト金融原則（以下、PIF 原則）への適合が確認された株式会社三井住友銀行が作成した「ポジティブ・インパクト金融原則適合型 ESG/SDGs 評価融資」の評価基準に合致した取組であることを確認した。

本適合書簡は、以下のスコープに対して有効である：

- 対象組織：鹿島建設株式会社
- 対象融資：ポジティブ・インパクト金融原則適合型 ESG/SDGs 評価融資
- 対象活動：- 鹿島建設株式会社の ESG/SDGs に関連する活動
 - 重点取り組み項目として設定した以下の活動
 - (1) 脱炭素社会移行への積極的な貢献「トリプル Zero2050」の達成
 - (2) たゆまぬ技術革新と鹿島品質へのこだわり/生産性の向上
 - (3) ダイバーシティを重視した人材育成・人材開発/働き方改革

Place and date:
Kobe, 21 January, 2022

For the issuing office:
DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社
〒651-0087 兵庫県神戸市中央区御幸通 4-2-20
三宮中央ビルディング 9F

代表取締役社長
前田 直樹

About DNV

DNV ビジネスアシュアランスグループは独立した第三者評価機関として、本サービス提供に関連し、鹿島建設株式会社とは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。

また、我々の評価は鹿島建設株式会社から提供された情報が正確であることを前提にしており、提供された情報の正確さについて監査やテストを行いません。また、この評価結果は、融資の財務的なパフォーマンス、いかなる投融資の価値、もしくは長期的な ESG パフォーマンスや SDGs への貢献に関する評価を提供するものではありません。

DNV ポジティブ・インパクト金融原則 評価プロトコル

DNV はアセスメントを通じ、以下を評価・確認しました。

原則	キーワード*	DNV 評価結果
原則 1 定義	a) インパクトのプラス面とマイナス面双方を評価する	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社三井住友銀行(以下、SMBC)は、鹿島建設株式会社(以下、鹿島建設)が進める ESG/SDGs 活動について、インパクトのプラス面に加えて、マイナス面(ネガティブなインパクト)を適切に評価している。 ESG/SDGs 活動のうち、「重点取組項目」として設定された 3 つの活動(9 つの評価指標)は、鹿島建設の事業を通じたサステナビリティ経営の実現にとって重要な活動であることが、貸し手である SMBC により評価され、具体的な 9 つの評価指標に基づき、インパクト達成状況がモニタリングされる計画である。 SMBC は、鹿島建設の重点取組項目が、次世代の担い手確保に対し直接的・間接的に貢献する取組みを含んでいることを評価している。
原則 2 枠組み	a) ポジティブ・インパクトを判断するためのプロセス・基準・方法を設定する	<ul style="list-style-type: none"> SMBC は、ポジティブ・インパクトを判断するため、PIF 原則に適合した ESG/SDGs 評価型資金プロセス判断シートを確立している。 SMBC はこの判断シートに基づく鹿島建設のポジティブ・インパクト評価に加え、鹿島建設との協議を通じて、その適切性を確認している。
	b) インパクトの達成状況をモニターし、検証プロセス・基準・方法を確立する	<ul style="list-style-type: none"> SMBC は、鹿島建設が実施する ESG/SDGs 活動に基づくインパクトの達成状況の検証プロセス・基準・方法を確立している。その具体的な計画は、SMBC と鹿島建設がディスカッションを通じ共有され、インパクトの達成に向け鹿島建設による取組みが進められることを確認した。
	c) プロセスを実行するために必要なスキルを持ったスタッフの配置	<ul style="list-style-type: none"> SMBC は、プロセスを実行するために必要なスキルを持った担当部署及びスタッフを配置しており、鹿島建設の PIF 原則に基づく ESG/SDGs 活動計画及び実施状況を適切に確認している。
	d) SPO・保証、プロセスの見直し	<ul style="list-style-type: none"> SMBC が定める、ポジティブ・インパクトを判断するための ESG/SDGs 評価型資金プロセス判断シート並びに上記の取組みは、第三者機関により、その適切性及び妥当性について確認が行われている。
原則 3 透明性	a) ポジティブ・インパクトの開示	<ul style="list-style-type: none"> SMBC は、ポジティブ・インパクトに関連する ESG/SDGs 活動について、鹿島建設が少なくとも年に 1 回、その達成状況について「鹿島統合報告書」等を通じて一般に情報開示することを確認(モニタリング)し、その透明性を確保する予定である。
	b) 適格性の判断プロセス・モニタリングプロセスの開示	<ul style="list-style-type: none"> 設定された適格性の判断プロセス・モニタリングプロセス(原則 1、原則 2 参照)は、第三者機関により評価され、SMBC、鹿島建設を含む関係者に開示される。
原則 4 評価	a) 意図するインパクトの実現度合いを評価する	<ul style="list-style-type: none"> SMBC は、鹿島建設が実施するポジティブ・インパクトがどのように実現するかについて、鹿島建設の実績や鹿島建設とのディスカッションを通じて確認している。
	b) 多様なインパクトがもたらされているかどうか	<ul style="list-style-type: none"> SMBC は、鹿島建設の ESG/SDGs 活動を ESG/SDGs 評価型資金プロセス判断シートに基づき項目毎(環境側面、社会側面、ガバナンス側面及び SDGs 達成への貢献)に評価し、多様なインパクトがもたらされることを確認している。
	c) 大きな(重要な)インパクトがもたらされているかどうか	<ul style="list-style-type: none"> SMBC は、鹿島建設の事業の特長に基づき、鹿島建設の各種 ESG/SDGs 活動の評価に加え、重要なポジティブ・インパクトに影響のある活動を 3 つの「重点取組項目」として設定している。これにより、当該ファイナンスにより、大きな(重要な)インパクトがもたらされ、かつ投下資本に対するインパクトが大きいことを企図している。
	d) 投下資本に対するインパクトの大きさ	
	e) 倍率性	<ul style="list-style-type: none"> 対象外
	f) 追加性の度合い	<ul style="list-style-type: none"> SMBC は、鹿島建設の ESG 活動が SDGs と関連付けられた活動であることを確認しており、追加性のあるポジティブ・インパクトと評価している。

*キーワード：SMBC が PIF 原則に基づき個別融資を評価する際に用いる観点で、キーとなる評価項目について簡潔な指標を設定した。SMBC の当該金融商品「ポジティブ・インパクト金融原則適合型 ESG/SDGs 評価融資」に対するモデル・フレームワークの PIF 原則への適合性は別途 DNV により評価・確認されている。